

「縁が取り持つ農と仲間たち」

～楽農学校OB会で仲間と農を楽しむ～

名村 正一さん

生きがいコース第12期～

インタビュー：令和5年11月



今回は、2010年から生きがいコースで農業を楽しみ、現在は生きがいコースサポーターとして活動されている楽農学校OB会会長の名村さんにお話を伺いました。

～生きがい農業コース受講のきっかけは何ですか～

母親の実家は太子町の兼業農家であったが幼少期に田んぼへ連れていかれた程度で農業への興味も薄く、もともと野菜を食べるのも嫌いだった。

知人の女性から野菜栽培の楽しさを聞き、農業入門講座を紹介してもらって参加したところ、保田茂先生による基調講演で野菜の効能について拝聴し『(肉を食べていない)江戸時代の武士が屈強な理由は、だいこんからカルシウムをきちんと摂っていたからと言われている』と伺い興味がわいた。新規就農駅前講座に通ううち、聞くだけでなく自身で野菜栽培をしたいと考えようになった。

また、センターが会社の本社と営業所との往来で見ていた美しい山の麓にあり、そこで過ごすことができることも魅力と感じた。

さらに、PTA仲間と行った篠山市(現丹波篠山市)のそば屋の野菜が驚くほど美味しかったこと等が重なり、野菜への興味がさらに増し、平成22年(2010年)春夏コースから生きがい農業コースに参加した。

～生きがい農業コースに参加してみていかがでしたか～

年齢的に夢中になることが減ってきていた中、農作業しているとあっという間に時間が経った。土日だけの農作業からスタートしたが徐々に楽しくなり、週の途中に1日有休を取って通うようになるなど、時間を忘れて夢中になれるものに出会うことができた。慣れるまでは農作業は体力的に楽ではなかったものの、農作業に来る前日から行くのが楽しみでならなかった。車やバイクの運転が好きだったこともあり、片道約1時間のドライブの楽しみも加味されていたと思う。



栽培した野菜を持ち帰ると妻が喜び、丁寧に料理してくれた。また、近所や知人におすそ分けして喜んでもらえた。

農作業を楽しみ、収穫物を楽しみ、喜んでもらえて嬉しくなり、やめられなくなって今に至っている。ちょうど、コース定員が増加された時期に当たり、継続して受講できるようになったことも個人的にラッキーで、縁を感じている。

#### ～生きがいコースを続けられてきた感想は～

近年、楽しみの意味合いがやや変化してきている。楽農学校 OB 会の会長を務めていることもあって多くの方と話す機会が増え、仲間との交流が楽しみに加わった。上手に野菜をつくりたいという同じ目的を持ちつつも、皆これまでの仕事経験や栽培に対する考え方、物事の見かたが多種多様であり、これまで接する機会がなかった人と出会って話を聞くことができるようになって自分の世界が広がった。ここに来たことで、新しい接点が多く生まれていると感じている。子供の学校関係で様々な役員を経験したが、これも新たな接点を作ってくれた。思い起こせば、PTA 活動の人脈からそば屋の美味しい野菜との出会いにつながった。人との縁が自分の人生を形成してくれていると実感している。



サポーター展示ほで  
管理機を使った畝たて作業

#### ～楽農学校 OB 会について～

OB 会は生きがい農業コース入校時から副会長を務めて、平成 25 年（2013 年）から会長となった。OB 会はセンター開設当初からあり、私は 2 代目の会長となる。役員はもちろん、会員は人材が豊富で、皆、運営に協力してくれる。

今後は、センターに来る人々をより有機的につなげていきたい。野菜づくりだけでなく、人とのつながりや交流が参加者のメリットと感じられるような活動を心がけたい。



感謝祭で OB 会による野菜カレー販売

新たな取り組みとして、OB 会の中にチームを作り、チームごとに活動しながら全体を有機的・包括的につなげていくしくみをつくりたい。また、秋の感謝祭に出店した際に、就農コース研修生の栽培した野菜の活用に取り組んだ。また、

以前実施したことがある現役就農コース研修生のOB 会視察研修参加の復活についても、両者視点が広がって良いのではないかと考えている。

そして、会長はじめ役員の後継者育成にも取り組んでいきたい。

～今後について教えてください～

2年前に病気を患ったが、3ヶ月入院のところを3週間で退院にこぎつけた。主治医が退院後どうしたいかを聞いてくれ、野菜栽培に復帰して農作業を元気にこなすことのできる具体的なリハビリ構成をしてくださったことと、畑で仲良くなった少年との“栽培したすいかをあげる”という約束を守りたかった。目的・目標や夢、モチベーションを持って行動することの大切さを実感した。

今後も、『農』を核にして多くの経験を持つ人とのつながりを広げ、新たな活動につなげていきたい。これまでの仕事上で得た経験を各自が活かしていくことで皆が豊かな時間を共有することができ、楽しめるのではないか。兵庫楽農生活センターという場所には可能性があると感じる。